



2014 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第4戦

SUGO SUPERBIKE 120 miles ENDURANCE RACE

TOHO Racing with MORIWAKI

JSB1000クラス

#104 山口 辰也 予選：7番手 (1'37"919) 決勝：DNF

TOHO Racing Powered by MORIWAKI

ST600クラス

#104 國川 浩道 予選：5番手 (1'32"381) 決勝：4位

6月28日(土曜日) 天候：曇りのち雨 路面：ウエット

公式予選

6月29日(日曜日) 天候：路面：ウエット

決勝

開催地:宮城県 スポーツランドSUGO (1周=3.7375km)

入場者数:5,250人 (土・日合計)

シリーズ前半戦最後となる第4戦SUGOラウンドは、昨年につきセミ耐久形式でJSB1000クラスが行われた。テクニカルなスポーツランドSUGOを52周、ライダーは、1人でも2人でもいいが、ほとんどのチームは1人で走る作戦だ。TOHO Racing with MORIWAKIも山口のペアとして國川がエントリーしていたが、山口のバックアップ要員としてのものであった。

事前テストからドライコンディションでのセットは出ていたため、金曜日のART合同走行では1本目のセッションで1分28秒231を出しトップタイムをマーク。2本目は、違う方向のセッティングを試したためタイムを縮めることはできなかったが、初日は総合5番手につけていた。ST600クラスの國川も初日は5番手と、まずまずのポジションにつけた。



予選が行われた土曜日は、ST600クラスのセッション途中から本格的に雨が降り始めウエットコンディションとなる。ST600クラスは、セッション前半が勝負となり、ここで1分32秒381をマークしていた國川は5番手グリッドを確保した。

JSB1000クラスも今回は計時予選で行われ、ウエットコンディションの中でのタイムアタックとなる。山口はセッション中盤に1分37秒919をマークし上位につけていた。その後、バックアップのために國川を規定集回数だけ走らせ、最後のアタックに入ろうとしたが、マイナートラブルが出てしまいタイムを更新することはできなかった。結局、中盤にマークしたタイムがベストとなりポジションは7番手となった。



決勝日は、朝から雨に見舞われる。ST600クラスは、トップに立った選手が次々と転倒するサバイバルレースとなったが、我慢の走行を続けた國川は、そんなライバルの脱落を尻目にポジションを上げ、最終的に4位でゴールした。



その後、JSB1000クラスのスタート進行が始まったところで雨足が強くなり、スタートディレイとなる。雨は降り続き予定よりも3時間以上遅れてレースがスタートすることになる。周回数は40、さらにピットインは義務付けされない、というルールとなり、各チームは戦略を練る。TOHO Racing with MORIWAKIは、無給油で行くことを決意。タイヤもハードをチョイスしていた。

ル・マン式スタートで始まった決勝レース。山口は、好スタートを見せ5番手で1コーナーに入っていく。そのままトップグループにつけていたが、5周目のSPインコーナー立ち上がりでリアタイヤがスライドし、少しだけはらんでしまいアウト側の白線に乗った瞬間、マシンは激しく暴れてしまう。何とか立て直そうと試みたが一瞬のことであり、ランオフエリアも狭いところだけに最後はマシンから離れたと言う。マシン、そして山口はスポンジバリアに激しく激突。大きなケガがなかったのが不幸中の幸いだった。

この後、チームは合同テストが行われる鈴鹿サーキットへ向かい、鈴鹿 8 耐モードにスイッチを切り換える。

JSB1000 ライダー/監督 山口 辰也 コメント

「今回の菅生ラウンドは、事前テストでは満足に走ることは出来ませんでした。ドライでは2番手で終えることが出来ていたので手応えがありました。レースウィークの公式練習一回目ではトップタイムをマークすることができ、ドライでは更なるタイムを出せる自信はありましたが、予選からは雨で、与えられたレインタイヤでセットアップを満足に進めることが出来ませんでした。決勝は、豪雨もあり、自分達には有利な状況になり、無給油、タイヤ交換もせずに走りきることを決めたので、序盤には我慢の走りを心がけ、焦らずに確実に走り切ろうと思っていたのですが、白線の上に乗り上げてしまい、コントロール不能になり、結果、転倒してしまいました。ですが、トップグループについて行くことを決めて、全力で走っている時にミスをしたのもあり、攻めた結果なので、このモチベーションを保ち、次のレースに備えます。」

JSB1000 チーフメカニック 戸井田 剛 コメント

「天候が難しいレースウィークとなってしまいました。特に決勝日は、降雨のためレーススケジュールが二転三転してしまいました。レースは、転倒リタイアという残念な結果でしたが、ライダーに怪我が無かったことが幸いです。残念なレースでしたが、次戦8耐に向けてタイヤ選択、燃費などのデータを取ることが出来たので、鈴鹿8耐は國川選手、小林選手と良い結果が出せるよう、今回のデータを活かし、しっかりテストをしたいと思います。」

ST600 ライダー 國川 浩道 コメント

「レースウィークに入り金曜日、ドライでのセッティングは進み、手応えを感じていました。予選では不安定な天候の中、途中から雨が降り出してしまいました。コースイン時の位置取りが悪く、タイムアタックが出来ずに終了してしまいました。決勝はウエットになりましたが、自分たちはウエットでのデータが少なく、ぶっつけ本番な部分が多かったのですが、その部分ではKYB様とメカニックとで話し合い、結果的になんとかうまくまとめる事が出来ました。レースでは、序盤に転倒車に絡み、順位を落としてしまいましたが、周回を重ねるごとに感触も良くなっていったので、焦らず追い上げました。転倒車が多かったので順位は上がり4位チェッカーとなりましたが、序盤のペースの悪さやレースの組み立て等、反省点が多いレースになってしまいました。しかし、ウィークではセッティングも進み、ドライでは確実に手応えも出てきたので、残りの2戦を絶対に優勝するため努力致します。今回も多大なるご支援、本当にありがとうございました。」

ST600 チーフメカニック 栗原 理 コメント

「今回、國川選手を担当させて頂きました。事前合同テストは、コースコンディションが安定せず、課題を残したままレースウィークを迎えました。

ウィークに入ってから、國川選手とマシンのセッティング課題・方向性を確認しながらセットアップして参りました。ART合同走行では、1分32秒053で、國川選手の自己ベストも更新出来ましたが、周りの選手のタイムも上がり、5番手にてウィーク初日は終了しました。予選当日、天候が安定せず、マシンセットアップ・準備に慌ただしい予選を迎えました。予選序盤、ドライタイヤで走

行出来ましたが、開始わずかでウェット路面、國川選手のドライでのタイムアタックは32秒381で5番手。前日のタイムを更新出来ませんでした。今回の予選は、タイミングの大事さを再確認させられました。決勝日、天候・路面コンディション、予報通りの朝を迎えました。國川選手、根市メカニックとの前日の打ち合わせのセットアップをしましたが、タイヤ選択は最後まで悩まされました。時間は待ってくれず、最後にタイヤを選択し、決勝レースに挑みました。結果、レース序盤ペースを上げられない國川選手でしたが、中盤以降ペースを上げてきました。周りの選手の転倒もあり、結果4位にてチェッカーを受けることが出来ました。今回、SUGO戦にてポイントランキング3位になりましたが、残り2戦ランキングを落とさず、優勝・シリーズチャンピオンを目指します。SUGO戦においてスポンサー様、満足とは言えませんが、無事に終わることが出来ました。今期シリーズ2戦ございますが、今後ともご協力宜しくお願い致します。」

総監督 福間 勇二 コメント

「まずは、ご協力頂いておりますスポンサー様、そしてご声援くださっております皆様に御礼申し上げます。JSB1000山口は、転倒はありましたが、現在乗れている証拠であると思いますので、次戦に期待が持てます。ST600國川は、スポンサーの皆様には手厚い御支援を頂いておりますのに不甲斐無いレースで申し訳ございません。次戦は良い結果に繋がるよう、努力して参ります。」

株式会社TOHO

TOHO Racing with MORIWAKI

TOHO Racing Powered by MORIWAKI

担当：野口